

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成19年度の春に“地域に密着”するという考え方から、今までの理念を職員全員で見直し、“住み慣れた町で”という一文を加えている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で作った理念であり、日常の職員同士の会話や支援にも、理念を基にして取り組む姿が見られている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	今年度より、さくらの家独自の広報を作成し、地域の方やご家族様に、より深くグループホームという存在を理解していただけるように努めている。 また、地域の方々と交えて、お花見会をしたりボランティアさんの受け入れをしている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物で外出する時に、ご近所の方に挨拶をしている。「おばあちゃん、元気だねえ」と、ご近所の方から声を掛けて頂くこともある。 お花、野菜や使わないタオルや着なくなった衣料品を持ってきてくださることもある	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事には可能な限り参加するように努め、昨年同様、ホームの行事への案内やポスターを作成して周知に努めた。早朝の参加が難しい公園清掃は、日中に入居者様と職員がゴミ拾いを行っている。 広報にて、ホームの行事や様子をお伝えし、回覧板にて地域に回覧している	○ 今後ますます地域との関わりを深めていきたい。 (防災面、高齢者の方々との交流)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方に、お花見を行うことやお茶会を開くことをポスターや広報でお知らせしたり、ホームに遊びに来て下さいと声をかけ、お誘いしている。 広報作成活動 地域包括支援センターと10月に認知症サポーター養成講座に参加予定。	○	ホーム独自で認知症サポーター養成講座を開く事を広報にてお知らせしていく。(11月末頃、実施予定)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価を受け、それを学習や研修の計画に取り入れ、職員全員が改善に向け意識し実践に取り組んでいる。 広報を作成し発行した。 地域運営推進会議に話題として取り上げている。 避難訓練に地域の代表に来ていただいている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームとして取り組んでいることや、今後の課題を具体的に提示し、アドバイスを受けながらサービスの向上に努力している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に開催している地域運営推進会議の内容や状況を報告するために、管理者と入居者様の代表が市に赴き、ホーム側の要望をしたり、市の現状を聞くなどして市とホームとの直接的な繋がり機会としている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学習会を開き学ぶ機会を得た。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会を開き学ぶ機会を得た。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類を作成し、入居者様や家族の方々に理解して頂き、納得して頂けるまで説明している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は「畑に行きたい」と話す入居者様の訴えをもとに、職員全員で1日の業務の流れを見直し、訴えのあった入居者様はもちろんのこと、他入居者様が外へ出られる時間帯を作った。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、担当の職員が入居者様の暮らしぶりや健康状態について知らせる手紙を出している。 金銭管理については、預かり金処理簿等に記帳し月1回の利用料請求時にコピーをして送り確認して頂いている。 職員の異動等は手紙や家族会でお知らせしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情・相談窓口が明記されている。 また、月1回の利用料支払い時、年1回の家族会や家族アンケート、地域運営推進会議などの場を通して意見を求め、それらを運営に反映させるため職員会議等の場所で確認し実践に努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時や月数回ある職員会議などで職員に意見や提案を求め反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要に応じ、職員を配置し、柔軟に対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度は職員の異動や退職もなく入居者様に対し、より安定した支援を行うことが出来るようになった。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部の研修への参加や法人が企画する通信講座や学習会などに業務保障で参加できている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>毎月のグループホーム協会の定例会、ブロック会の会議に出席し研修活動を通しての交流を図っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>法人内の他部署と共にボウリングや体操等のスポーツ全般を行う企画に参加し、ストレスを解消している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>勤務状況は出勤簿、勤務時間申請書や業務日誌にて把握している。 個々の努力を管理者が評価し、それを運営者に報告をし努力や実績の評価をしている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面談をする事によって、ご本人様の思いなどを伺い、フェイスシートに落とし、それを介護計画に活かしながら求めている事を聞く機会を作り、受けとめるように努力している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居申し込み時点にて、ご家族様からお伺いするようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	さくらの家を見学して頂いたときに概要を説明し、現在、困っていること等をお聞きし地域包括支援センターとも相談している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にご本人様やご家族様に見学して頂いたり、入所後にはご家族様や馴染みのある方に来訪して頂くなど、安心感を持って徐々に馴染んでもらえるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人様の思いを大切にし、一緒に考えるようにしている。また、その出来事に対しカンファレンスを行ったり、業務日誌などに残して職員全体で共有している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会や季節ごとの行事などに、声を掛けてお誘いしたり手紙等で近況を報告している。また、カンファレンスと一緒に参加して頂き、介護計画を立てている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人様の過去の生活歴や趣味などを、ご家族様からお伺いし、その内容を介護計画に活かしカンファレンスにも参加していただけるように支援している。月に1度の訪問や行事にもお誘いし、一緒に過ごすなどをして関係を築いている。職員は潤滑油として		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の来訪をご家族様の協力の下、お願いしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	カンファレンスでも取り上げ、常に入居者様同士の関係の目を向けている。また、職員が間に入って関わりを持つたり仲立ちする形で関係性を持てるように取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用(契約)が終わっても、入院中の入居者様に花束を持ってお見舞いに伺ったりして関係を絶たないようにしている。また、年賀状を出す事で関係を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスの中で、ご本人様の思いや望んでいることを検討し、ご本人様からもお伺いするように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、親類の方にお伺いし、フェイスシートを作成し生活記録と一緒にケースに閉じている。カンファレンスに参加して頂いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	カンファレンスにて把握し、生活面、心理面の視点や出来ない事やできる事に注目し、その人全体の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	常にご本人様、ご家族様の意向を確かめることを大切にし、アセスメントやモニタリングを職員全員で行い、ケアカンファレンスを重ねて介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご本人様やご家族様の意向と現状をふまえて、ケアカンファレンスを重ね3ヶ月ごとに介護計画の見直しを実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいたケアを行い、気がついたことは細かに記録をして職員同士で情報を共有できるように努めている。3ヶ月に1度、カンファレンスを行い、その介護計画の作成に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人様の希望、必要性に応じてフィットネスクラブ、通院、床屋、畑作りなどの送迎や見守りを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員さんや消防署に協力を求めて避難訓練を行ったり地域運営推進会議を通して、地域との繋がりについて前向きに参加できるようにしている。秋には地区の公民館で行われる文化祭に出展している。また、ホームの行事を行う際に、近くのスーパーに協力依頼してポスターを貼らせて頂いている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人様の希望で、筋力低下防止のためフィットネスクラブに通ったりコンサートやクリスマス会に参加し、他利用者様と交流を持てるように支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	年に2～3回ほど、お互いに情報交換をしたり勉強会などの場で協働している		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できる限り、ご本人様、ご家族様、担当医師などと相談の上、医療受診の支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>ご本人様、ご家族様、医師、看護師、訪問看護、職員など連携部署との話し合いを行い、ご本人様、ご家族様の気持ちの変化、ご本人様の思いに添った支援を行う。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人の個性を大切にし、各入居者様に応じた声のかけ方、接し方を行い、プライバシーを損ねることの無いように職員同士で徹底している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者様の意思を確認して、できる限り自己決定に添った支援に努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の個々のその時の思いに合わせて、できる限り希望に添った支援を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご本人様の意思を確認して、希望される理美容店に行ったり出張依頼をして訪問して頂いている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立作成にも、入居者様の希望を取り入れながら職員と一緒に決めており、旬の食材を中心に健康面も配慮している。食事の準備、後片付けなども出来る限り入居者様に参加をして頂き、出来ることを活かせる場面作りに努めている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人様の希望に合わせて、体調を見ながら行っている。おやつは職員と一緒に買い物に行ったときに、入居者様に好みの物を選んで頂いている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者様、一人一人の排泄パターンを把握し、羞恥心に配慮をしながら介助にあたっている。 リハビリパンツの使用時間、臭気を確認しながら、必要に応じてリハビリパンツの交換を促し行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おき(週3回)、午後から実施している。入浴する際にはバイタルチェックを確認し入浴をしている。(但し、勤務体制、行事への参加などの理由により、希望の時間帯に入浴ができない場合がある)その場合は、翌日にまわし、出来るだけ入浴して頂いている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休息したい時には自由に自室でゆっくりと休めるように配慮している。各入居者様に無理のない生活していただけるようにバランスを考え、休息を取っていただく様に声かけをしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	過去の生活歴、趣味など入居者様の希望を活かした支援を行っている。調理や掃除、洗濯干し、洗濯たたみ、買物や畑作り、生け花などを職員と一緒にしている。 ドライブやボランティアさんの訪問、ご家族様や馴染みのある方の訪問にて気晴らしを図っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりお金をお預かりし、施設で金庫内に管理をしている入居者様に対しては買い物をする際に、その都度、金庫内からお預かりしているお金を出し、自分で支払いをしてもらうようにしている。自分で小額を管理されている入居者様もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の体調、状況によって、希望に沿うことが出来る様に支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者様の行ってみたい場所、ゆかりのある場所など希望があれば、予定を組みドライブに出掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人やご家族様に電話をする際には、職員が電話番号を調べたりしている。手紙が届いた時には、ご本人様に返事を書かないかを確認し希望に応じて支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間は特に定めてはならず(夜間帯を除く睡眠時)、いつでも気兼ねなく訪問し、過ごしていただけるように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内や事業所内外で、身体拘束などの勉強会や研修会に参加している。その研修会や勉強会での報告をすることで職員全員が共有意識を持っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者様が外出されそうな時には、無理に外出を止めるようなことはしておらず、さりげなく声かけを行って気持ちを紛らわせたり、一緒に同行をして安全面に配慮している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が出勤した際には、入居者様の所在確認を自分の目や他職員に確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者様の状況により職員が危険要因を確認して関わりを持っている。また、服薬、はさみや包丁の刃物類、針や洗剤といった危険要因のあるものに関して管理方法のリスクを決めて実行している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者様、一人一人の身体状況を把握して記録や申し送りにて確認している。職員全員で、危険意識と共有意識に務めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルを作成し、消防、警察署の協力を得ている。避難訓練の際には、心肺蘇生法、AEDの使用方法の研修会を同時に行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設内でも2~3ヶ月ごとに避難訓練を行っており、地域の方々の協力を得られる体制作りをとっている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者様、一人ひとりのリスクに対して職員全員がカンファレンスを行い、ご家族様に状況を伺いながら、ご家族様を交えたうえで入居者様にとっての最善の方法を取っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者様、一人一人の状況を職員が把握し、食欲や体調の変化に気付いたらバイタルをチェックしている。異常が見られた場合、管理者報告と連絡、訪問看護、病院に連絡をし指示を受けている。場合によっては受診をしており、受診前後には必ず、管理者とご家族様に連絡して報告をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬、塗布薬の一覧ファイルを作成し、常に職員が服薬内容を確認残薬管理が出来るようにしている。服薬に関して不明な点があれば、訪問看護や往診、病院に連絡を入れ確認している。服薬時には職員が傍にいて、服薬終了の確認を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の食材を使用したり乳製品を取り入れている。散歩や家事活動を行いながら、身体を動かしていき自然排泄ができるようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声かけをして口腔ケアを行っている。入居者様、一人ひとりの見守り、介助を行い安全に口腔ケアが行えるように務めている。就寝時には、義歯を外していただき週2回、洗浄剤を使用して義歯の除菌洗浄を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は入居者様と一緒に考え作成している。年2回管理栄養士に献立チェックを依頼しアドバイスを受けている。食事量の摂取チェック表を作り、一人一人の状況把握に努めている。お茶はいつでも飲めるようポットを用意し声をかけ飲んでいただいている。 排尿、排便の少ない入居者様に対して、日中や夜間に水分	○	水分摂取量を把握する為のチェック表を作成し、10月から実施していく予定。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し職員全員で周知し、予防と対応に取り組んでおり、感染症の発症時期の近くには他の職種(訪問看護)と連携をして研修会や学習会を開いている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁やまな板といった調理器具はハイター消毒や食器乾燥機にかけ殺菌をしている。食材は、その日に使うものだけを購入し(缶詰、乾物類は除く)、残菜はその都度、処分している。衛生マニュアルを作成し職員全員で周知徹底をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	普通の民家を利用している為、施設的な雰囲気はあまり感じられない。玄関には手書きの表札をかけており、ホーム周囲には様々な植木や畑がある。 広報にて地域の方々にお知らせしている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には地域の方々やご家族様から頂いた花を生けて飾っている。ホームの庭には桜の木、紫陽花、向日葵、ぶどう棚、栗の木など四季折々の花や木々が植えてあり季節感を味わう事ができている。採光はカーテンで工夫をしており、居間と台所には仕切りがなく、調理時の包丁の音や匂いを感じ取れている。各居室には時計やカレンダーを設置しており、日時を確認できている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにソファー、縁側に椅子を置いて日向ぼっこをしたり、お茶飲みをしながら会話をしたり歌を歌ったりして、入居者様同士の交流を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には自宅で使ってきたもの(食器、布団、家具など)を持ち込んでいただくように、ご家族様へ説明をしている。また、昔に趣味で行っていたものや信仰のあるもの(仏壇)についても、その時々によってご家族様に連絡を入れて持ってきて頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天候や気温により個々の居室の換気を入居者様と一緒にしたり、ご本人様の許可を得た上で個別にタンス内の臭気をとるために隙間を開けたりしている。居間や台所(勝手口)の開閉は入居者様に伺ってから換気調節をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺やソファ、椅子を利用して自立した歩行が出来る様にしている。つまずきや転倒の可能性の高い入居者様に対しては、職員が手引き歩行や介助について安全に歩行してもらっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレを1階部分に1ヶ所増設をしたため、以前に比べトイレの使用に対する混雑は幾分解消されてきている。また、トイレが分かるように「トイレ」と書いた紙を貼ったり、浴室と分かるように暖簾をさげ、各個室には表札や造花、鈴をつけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの周囲には様々な植木や花、畑があり、開花や収穫を全入居者様で楽しみにしている。収穫の際には、畑仕事を活動の一つにしている入居者様を中心に、職員や他入居者様と一緒にしている。晴れた日には、ベランダや縁側にて職員と入居者様が一緒になって洗濯物を干している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者様と一緒に食事の献立を考えたり買い物と一緒に掛け、買い物では入居者様の希望を取り入れて買い物をし、調理をしている。炊作りから種選別の買い物、収穫までを入居者様と一緒にしています。日常生活の主体は入居者様であり、職員は黒子のケアを行っています。また、ホームの行事には、ご家族様をお誘いして職員と家族間の交流を深めています。